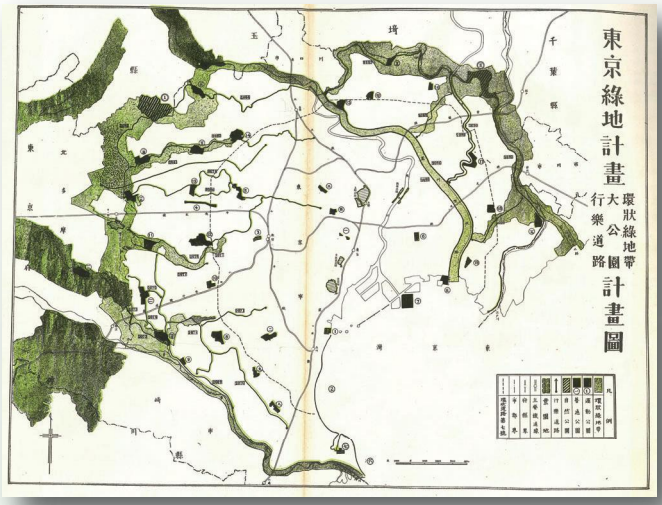
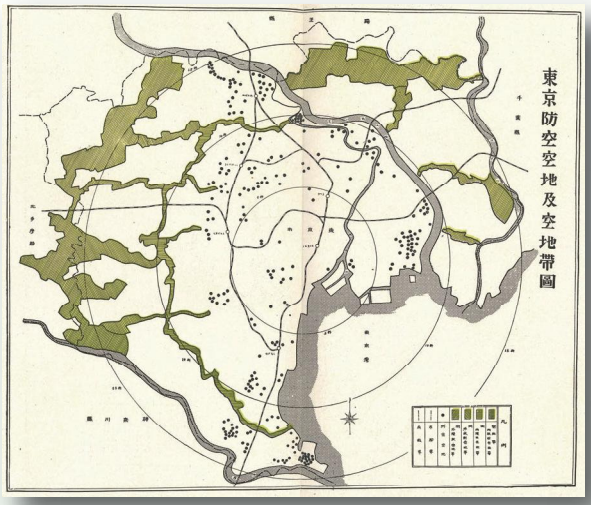
東京緑地計画と防空



東京緑地計画（環状緑地帯・大公園・行楽道路）計画図



東京防空空地及空地帯図

「公園緑地　第３巻第２・３号（昭和14年2月）、第７巻第４号（昭和18年６月）」
請求番号：UZ－G6－110、UZ－G6－144

戦時下における空襲から都市を防衛する防空対策が都市計画の主要課題となり、緑地計画も防空都市計画に組み込まれていきます。市街地が無秩序に拡大すると、保健衛生だけでなく防火防空上の危険も引き起こすことから、昭和15年(1940)７月に都市計画東京地方委員会で空地地区指定の調査審議が行われ、同年９月に宅地内の空地の保有量や建築物の間隔などの規制を定めた空地地区が指定されました(翌年７月に追加)。

アメリカとの戦争の危機を前にした昭和16年11月には、防空法改正に伴う空地指定制度が定められ、昭和18年３月に、東京緑地計画の環状緑地帯を継承する形で空地帯が指定されました。